

「虫嫌い」だから見えた新たな切り口 社会に広く役立つ研究にしたい!

吉澤樹理さん

YOSHIZAWA JURI

香川大学教育学部
小学校教育コース 生活・総合領域
准教授・博士(農学)

▶ 虫の研究が専門だけど、実は虫が苦手…

アリを研究しているという「昆虫少女だったんですね」と言われますが、昆虫どころか生き物全般が苦手です。大学でゼミを決めたのも、唯一触れたのがアリだったから。最初に「20種類のアリを岐阜・愛知県で採取する」という課題が出て、採取用の道具をつくったりしているうちにハマってしまいましたが、今も虫は苦手ですね。むしろ嫌いだからこそわかること、好きなら気づかなかっただろう視点を活かして、今はライフワークであるアリの研究のかたわら「虫の何が不快なのか」の解明にも取り組んでいます。



▶ 「なぜ嫌い？」の解明に挑む 画期的な研究

きっかけは、大学院で教育学の修士号取得を目指していた時のこと。小学校の理科学習には昆虫の単元がありますが、「教科書の写真や絵が気持ち悪くて見たくない」という声が、児童だけでなく教師からも上がりました。これは何とかしないと学習に支障が…と思いましたが、「虫の形や色が不快だ」という言及はあっても「どんな形・色が不快なのか」まで踏み込んだ研究はなかったんです。そこで私はいろんな3D模型を作り、昆虫とは言わずに色と形だけで快・不快を判断してもらうアンケートをとって分析する手法を採用。今後は「動き」なども加えて、さらにデータを増やしていく予定です。

▶ 研究成果を活用する道はさまざま

私は教材制作なども手掛けるので、虫嫌いの傾向や要因がわかれば、子どもたちに興味を持ってもらえる図表を大きく採用するなど、なるべく苦手意識を持たず「好き」を理科の入口にするお手伝いがしたい。将来的には文具雑貨のデザインなど商品開発への応用もできそうですし、一般社会に広く貢献できる研究になればいいと思っています。大学の仕事は好きだけど、虫は相変わらず苦手な私。「好きなジャンル=仕事」という発想から一度離れてみるのも、新しい可能性を拓いてくれるかもしれませんね。

Profile

愛知県生まれ。岐阜大学教育学部を卒業後、同大学院連合農学研究科で博士号を取得。杉並区立科学館、板橋区立教育科学館で子どもたちに理科を教えるかたわらサイエンスコミュニケーターの資格を取得し、立教大学に勤務。社会人で教育学の修士号も取得し、2022年から現職。

▶ 好きな曲を弾きまくる!

ストレス発散は子どもの頃から続けているエレクトーン。どんな曲を弾きたい気分かによって、今の自分の心身コンディションが何となくわかるようになりました。



中高生へのメッセージ

やりたいことを追求したいと思っていても、壁にぶつかる時は必ず来るものです。私が壁を乗り越えられたのは、研究という仕事が好きだから。「好き」がすべての原動力です。研究職の女性は香川大学でいうと2割程度、確かに厳しくはあると思いますが、コミュニケーションをとれる人ほど着実にチャンスをつかんでいます。周囲の支援や理解もきっとありますから、お互いに手を取り合って進んでいきましょう。

教育学部
小学校教育コース

子どもの発達と発達障害ならびに人間の生涯発達に関わる理解を基盤とした支援ができるとともに、教科教育や学級経営にも強い優れた小学校教員を養成するコースです。

